



キャンパス・コンソーシアム函館
合同公開講座

函館学 2016

第5回講座
講義資料

函館の子育て環境とまちづくり

菊池 幸恵

函館工業高等専門学校 准教授

日時：平成28年10月29日（土）午後1:30～3:00

会場：函館工業高等専門学校 大講義室

主催：キャンパス・コンソーシアム函館

略歴

鹿児島県出身。東京学芸大学卒業後、民間企業の勤務を経て、千葉大学大学院自然科学研究科博士前期・後期課程に進学し、平成20年に博士（工学）を取得。その後、平成20年から千葉大学園芸学研究科博士研究員、平成21年～平成26年に関東学院大学工学部助教を経て、平成26年4月に函館工業高等専門学校社会基盤工学科助教として赴任し、現在、函館工業高等専門学校社会基盤工学科准教授として教育、研究に従事している。

専門は、まちづくりや都市計画であり、主な研究テーマは生活空間における問題と地域資源の有効活用などである。特に、子どもや高齢者に優しい空間計画などに興味をもって取り組んでいる。函館市の子育て環境については去年から取り組んでいるテーマである。

■■■ 講演内容 ■■■

◎「子育て」を取り巻く環境

近年、我が国における少子化は顕著であり現在の安倍政権においても、「子ども・子育て支援」は国策の大きな柱であり、解決することが急務となっている問題です。昨今、我が国においては、地域コミュニティの崩壊や核家族化、子育てをめぐる環境も大きな変化が生じています。そのような社会状況の中、核家族で子育てをしている母親の多くは、近隣や友人から孤立した状態に陥りやすく、そのような状態では、子育ての「孤立化」が進行する恐れがあることが言われています。そのような育児不安の解消のきっかけづくりの一つとして、子どもと母親だけという密室育児から解放するための外出支援が必要となってきています。政府や地方自治体でも外出支援は推進されており、母子の居場所づくりへの取り組みもみられるようになりました。

◎「子ども」を取り巻く環境

子どもにとって、遊びとは様々なことを学ぶ機会でもあり、特に、外的環境から多様な刺激を受ける戸外での遊びは、子どもの身体的・精神的成長をさらに促すものです。しかし、近年、子どもの遊び場や時間、遊び仲間の減少、遊びの種類や内容等の大きな変化が問題となっており、子どもが遊びや人との関わりを体験する機会が減少していることが明らかになりました。また、空間計画の観点からも「遊ばせる場所の少なさ」や「遊び環境の質の貧しさ」という現状は取り組むべき事柄であり、親世代が遊びの重要性を知らないという点についても問題があると考えられます。

◎函館の「子育て環境」とまちづくり

函館市の子育て環境（公園、子育て支援施設、設備など）を取り上げ、空間計画的観点から、今回は函館の中心地の一部である本町付近を対象事例として具体的に説明します。また、安心・安全な子育て環境への提案に関するお話もしたいと思います。